

# 第25回 名古屋の旧町名を復活させる有志の会 「観光の新しい潮流とその地域」

平成26年3月29日(土)

犬山おもてなし隊 加藤 広明

## 有楽苑 国宝如庵 と 国宝犬山城

### 【日本ラインの謂れ】

大正6年頃の犬山町長原田さんのもとに、かねてから交友のあった世界的な地理学者志賀重昂博士しげたかが訪れたとき、犬山城下を案内しようと内田の渡し場(現在のツインブリッジたもとのところ)まで一緒に歩きました。その時の雲の谷間の夕陽の光五色、白壁の古城が浮かび上がる姿こそ「ドイツのライン川の一画にあるいにしえ思ひ出の夕照の景観である。木曾川という古の名もよいが、今後は日本ライン川とよんではどうか…」といわれた事から。

### 【日本八景に】

昭和2年、木曾川中流域は当時の鉄道省の推薦もあり、日本八景に選ばれました。「ビューティフルジャパン」として海外へのポスターも作成。当時180人程も芸者さんたちがおり、名古屋の奥座敷と呼ばれ数多くの文人墨客が訪れていました。(北原白秋、与謝野晶子、島崎藤村など)木曾の電力王福沢桃介と川上貞奴の別荘もここにあります。

※「日本八景」より 平凡社出版 2005年3月発売

### 【河(リバー)と城(キャッスル)の関係】

ヨーロッパ各地の河(ドナウ、ライン、セーヌ、ローヌ、ヴォルガ)も中世から塩や香辛料などの物資を運び、人を運び、文化を育んだ動脈で東西を結ぶ重要な交易路であり城で税金を徴収していました。ここ尾張は尾張藩が徳川の命により良質な木曾材を管理し、木曾福島あたりで切り出した後、錦織綱場(八百津)までは急流の為1本流しで犬山城下で筏として生まれ(材木検印など)、熱田の白鳥を経て江戸へ、紀州へと運ばれ、木曾材により富を得ました。



▲犬山城下を中心に笠松～木曾福島まで往来していた帆船



▲昭和二年鉄道省により選ばれた木曾川中流域は日本八景の一つ



▲城山荘を背景に。犬山は芸奴文化が栄え、名古屋の奥座敷とも呼ばれてました

## ～国宝犬山城城下町～

この犬山城の足下で発展した「犬山城下町」は、成瀬城主のもと江戸時代から発展し、材木町、鶉飼町、鍛冶屋町、図師町、末本町、本町や各職業別に城下町が形成され、にぎわいを見せてきた。中でも、呉服問屋が多く集まった本町は、鮮やかな呉服とともにさまざまな文化が発展した。呉服に加えて「犬山焼」や「茶の湯」、さらには「からくり人形」などの文化が現代にいたるまで引き継がれている。

さらには、戦火を逃れた犬山城および犬山城下地区は、町のつくりが江戸時代の城下絵図とピッタリ同じであり、呉服で栄えた本町通りから鍛冶屋町、練屋町、魚屋町など、その昔をしのばせる町名や歴史の名残を偲ばせる建築物や木戸口などが、今もそのまま残っている、という特性を有している。

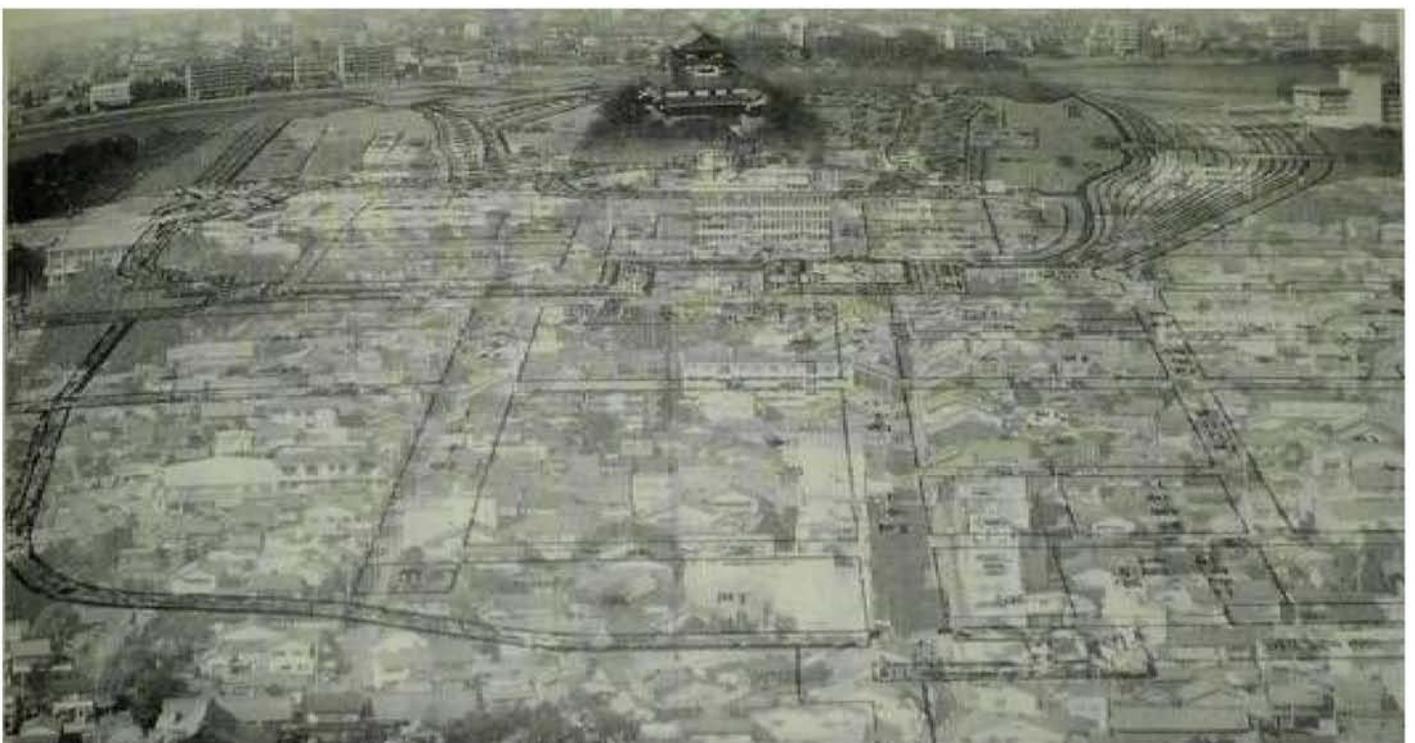
戦後の高度経済成長の時代には「列島改造ブーム」を受け、「城下町の通りを拡幅しよう」という動きもみられたが、石田芳弘市長時代に見送りの決断がなされ、幸いにして昔ながらの面影を]残している、日本唯一の城下町といえる。

城下町の拡幅が一度は決定されたものの、それが撤回されたいきさつは、平成18年に刊行された『よみがえれ城下町』（愛知県犬山市都市整備部監修）に詳しく記されている。



### 【写真】現在の犬山城下町に古地図を重ねたもの

※全国約200ある城下町で江戸時代からの町割りが変わらない全国唯一の「今も昔も城下町」



同書によると、石田芳弘氏が犬山市長に就任した翌年である平成8年9月に、当地で開催された「全国町並みゼミ大会」が拡幅見直しの契機となった。このイベントで拡幅を実行した2つの都市(彦根市、日南市)の事例が紹介されたが、それぞれ拡幅によって活性化・衰退と真っ向から相反する結果となったことから、“歴史的遺産を活かす町づくり”の機運が盛り上がり、平成10年10月には『新町線まちづくり検討会』が組織された。その後9回の検討会を経て、同組織が犬山市に提出したのが、「新町線まちづくりの基本理念」6項目である。この6項目の理念に基づき、道路拡幅の凍結が犬山市によって本格的に俎上に乗り、翌平成11年6月に日本国内では初となる、「道路拡幅の凍結」が決定された。

(下段図参照)

この決定によって、本町通りを始めとした各地の町屋が維持され、通りに面する町並みに加え、奥にある蔵や茶室、さらにはそこに住む人々の暮らしや文化も維持されており、今なお「生き続けている城下町」であることが、犬山城下地区の最大の特性であるといえる。

さらには、「祭りと車山(やま)が似合うまちづくり」として、拡幅凍結に大きく寄与したのが犬山祭である。その特徴の最たるものが、13輛におよぶ3層の車山と、車山頂で笛や太鼓に合わせて舞う「からくり人形」であるが、道路幅と町並みが維持されたことによって車山の壮大さが一層映えることとなる。

【図】予定されていた都市計画道路の3つの整備案



再発見!ちょっと近くのいいところ「本物」を求めて、犬山へ

『犬山おもてなし隊』がご案内いたします

千三百年の伝統を誇る歴史絵巻を目の前で

# 木曾川うかい開きと 花火観賞

6月1日(日)

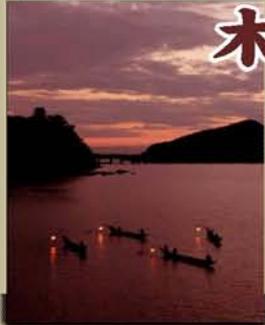
16時30分集合(～20:30頃解散)

※集合場所:犬山遊園駅西口

＜参加代金＞ お一人様6,500円  
(鵜飼鑑賞・弁当付き)

◆コース

名鉄犬山遊園駅(16:30集合)～犬山おもてなし隊案内で成瀬家墓のある臨溪院～乗船・出港<船上でのご夕食・鵜飼・花火観賞>～(20:30頃各自解散)



木曾川うかいは、手縄をつけた10羽の鵜に魚を獲らせる古典的な漁法です。夏の風情いっぱいの中、国宝犬山城を背景に、鵜匠の巧みな手縄さばきと鵜妙技を間近でご覧いただけます。



## 「木曾川うかい 夜の鵜飼と鵜飼バックヤードツアー」プラン

2014年6月1日(日)～10月15日(水)

※集合場所:犬山遊園駅西口 (※6月1日・8月10日を除く)

＜参加代金＞ お一人様6,200～6,500円

(利用日によって料金や集合時間が異なります。詳細はお問い合わせ下さいませ。)

15時～15時半集合(19:45～20:15頃解散)

◆コース (所要時間:約3時間)

鵜飼バックヤードツアー……木曾川遊覧とお食事……鵜飼観賞

鵜飼が始まる前の準備の段階からご覧いただき、鵜匠のいでのたちや鵜の特性など間近で説明を受けた後に、船上食事つき夜の鵜飼をお楽しみいただく特別なプランです。



稲山 琴美

東海地方初の女性鵜匠

## 「古地図で学ぶ“今も昔も城下町”散策」プラン

＜参加代金＞ お一人様500円 (食事なし、有料施設料別途)

【散策モデルコース】 所要:約2時間 ※集合場所:犬山遊園駅西口

三光稲荷神社…からり展示館…城とまちミュージアム…城下町歩き

\*季節や天候、お客様層に合わせたご希望コースでご案内致します。



▲城とまちミュージアム

▼犬山おもてなし隊



## お問い合わせ・ご予約

～ツーリズム産業を通じて活力ある地域・日本を創生します～

旅行企画・実施 **株式会社ツアー・ステーション**

TEL: (0587) 93-1128 FAX: (0587) 93-3491 E-MAIL: info@tourstation.jp

営業時間

●月～金 9:00～18:00 土9:00～12:00  
日曜日・祝日定休

愛知県知事旅行業登録第2-929号 (社)全国旅行業協会正会員  
〒480-0103 愛知県丹羽郡扶桑町大字柏森字西前282番地1

全国着地型観光推進東海地区リーダー

【総合旅行業務取扱管理者 加藤広明】

旅行業取扱管理者とは、お客様の旅行を取り扱う営業所の責任者です。この旅行契約に関し、担当者からの説明にご不明の点がありましたらご遠慮なく上記旅行業務取扱管理者にご質問下さい。

ホームページをご覧ください <http://www.tourstation.jp>

yahoo! で検索 **犬山おもてなし隊** 検索



中小企業地域資源活用促進法観光分野愛知県初の認定取得

当社は、国から認定を受けた地域資源活用事業計画に取り組んでいます。

事業名: 犬山の歴史を直接住民との連携から学び体験する「城下町文化再発見!」着地型観光事業

(認定通巻番号 4-23-011 経済産業省・国土交通省) 認定日: 2011年9月29日 (共同申請者: 犬山まちづくり株式会社)